

平成30年度 つくば秀英高等学校 経営計画表

1. 学校の現況

学校名	つくば秀英高等学校			課程		全日制		学校長名	石川 英昭	
教頭名	砂田 益弘		副教頭名	小島 基浩・野川 芳孝				事務長名	坂本 光久	
教職員数	教諭	養護教諭	養護助教諭	常勤講師	実習助手	非常勤講師	事務職員	技術員	合計	
	36	1	1	10	1	19	12	1	81	
生徒数	(学科)	1年		2年		3年		合計		クラス数合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科	154	127	150	110	136	99	440	336	24

2. 目指す学校像

建学の精神（自主・博愛・創造）を高らかに掲げて、国際的研究学園都市つくばにふさわしい、21世紀社会の課題と未来を先導する知恵と進取の気風あふれる学校づくりをすすめる。

3. 教育方針

- (1) 生徒の自主性を生かし、知性・礼儀・健康を育む教育の実践
- (2) 生徒個々の適性と能力に応じた、きめ細かい指導
- (3) 新時代に対応できる、幅広く国際的な教育と感覚とを身につけた生徒の育成
- (4) 多角的な可能性を発掘し、自己表現のできる生徒の育成
- (5) 自然を愛し、先達を敬い、規律を守る、倫理観のある生徒の育成

4. 教育目標

- 1) 生徒一人ひとりの進路実現
- 2) 基本的な生活習慣の確立

5. 中期的目標

本校は、2020（平成32）年に創立25周年を迎える。本校を取り巻く社会環境、高校教育環境の変化を踏まえ、克服すべき課題に取り組み、未来志向の本格的な存在感のある進学校をめざす。

平成30年度 つくば秀英高等学校 評価結果表

1. 本年度の学校目標

- 1) 生徒の自主性を生かし、知性・礼儀・健康を育む教育の実践
- 2) 生徒個々の適性と能力に応じた、きめ細かい指導
- 3) 新時代に対応できる、幅広く国際的な教育と感覚とを身につけた生徒の育成
- 4) 多角的な可能性を発掘し、自己表現のできる生徒の育成
- 5) 自然を愛し、先達を敬い、規律を守る、倫理観のある生徒の育成

2. 自己評価の結果に対する学校関係者評価

評価区分		重点目標	自己評価	学校関係者評価※
校務分掌	教務部	高大接続改革への対応	4	4
		新学習指導要領への対応	3	
		校内全般の教務事項の見直し	4	
	生徒指導部	生徒に寄り添った生徒指導の確立	4	
		いじめ撲滅のための方策	4～5	
		他校にも誇れる充実した行事の開催	4	
		P T Aを通じた保護者との密な交流の実現	4	
	進路指導部	スムーズな保健環境の活動	4	
		資質・能力を身につけるきっかけを作る。	4	
		学びのきっかけを作る。	3	
		学びの方法を模索する。	4	
		生徒一人一人の学びに対するより丁寧な支援	4	
		学びの質をどのように評価していくか。	4	
	入試広報部	社会で求められる人材とは何かを模索する。	3	
校内での進路や行事に対する取り組みを積極的に広報活動に活用し、志願者層の質と量の確保に努める。		4		
学年	第1学年	基礎的・基本的な学力を身につける。思考力・判断力・表現力及び学習意欲とチャレンジ精神を持った生徒の育成する。礼儀正しく、豊かな心と社会性を身につけた規律ある生活を定着させる。文武両道の精神の下、健康でたくましい生徒の育成に努める。	4～5	4
	第2学年	自信をつける過程で「思考力」「表現力」「判断力」「実践力」を身につける。	4～5	
	第3学年	生徒の夢の実現に向けて、学力向上させることで、国公立大学20名合格、大学進学率80%を達成させる。	4	
コース	Sコース	学力向上	4～5	4
	A・Bコース	基礎学力の向上	4	
		進路実現を目指したキャリア教育の充実	4	
スポーツコース	特色を活かした授業の充実とスポーツを通じてた地域社会への貢献	4～5		
教科	国語	①「表現力」「協働性」を重視した授業作り ②多読 ③古典文法力と古文単語力の強化	4	4
	地理歴史・公民	①社会で必要となる基本知識の確立②事項の関連性・つながりを理解③グループワークを通じ多様な価値観を知るとともに、主体性をはぐくむ	4	
	数学	学力向上へ向けた、他教科との協働	4	
	理科	新テストに向けた3要素の育成	4	
	英語	「英語の秀英」の構築に向けて具体的な取り組みを確立させる。	4	
	保健体育	身体的、精神的に健康な体作りに努める。	4	
	芸術	感性を高め、創造的な表現と心の育成に努める。	5	
	家庭	将来の目標の実現のために必要な知識を身につける。	4	
情報	文系・理系を問わず、3要素を基盤とした「情報」についての素養を身につける。	5		


※本校の教育活動に関する意見交換により得られた自己評価の結果についての評価である。

評価基準

5：十分適正である 4：適正である 3：概ね適正である 2：やや適正に欠ける 1：適正でない

平成30年度 つくば秀英高等学校 第三者評価結果表

	評価事項		評価
1	本校の教育理念の実践について		⑤ 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
2	当年度の教育目標に対する取組とその成果について (主に授業、生徒指導、進路指導、部活動等の状況を中心に)	校務分掌	5: 十分適正である ④ 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		学年	5: 十分適正である ④ 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		コース	5: 十分適正である ④ 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
		教科	5: 十分適正である ④ 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
3	当年度の課題と今後の方策について		⑤ 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない
4	本校の組織運営について		⑤ 十分適正である 4: 適正である 3: 概ね適正である 2: やや適正に欠ける 1: 適正でない

(評価者の意見等)
 開校から25年を迎えるに至り、内容的にも充実してきていると思われる。大学への進学率はじめ、部活動においても十分な成果をあげている。今後、なお一層「秀英のブランド力」が向上することを期待する。
 つくば市 夷石地区区長会長 木村 真一 

※上記は自己評価結果や学校関係者評価の実施状況を踏まえて、本校の学校運営の状況について評価したものである。